

【技術報告賞】 松浦純生 氏（前）京都大学防災研究所、正会員
●推薦対象の技術報告：融雪期の地すべりによる磐越西線松野隧道（トンネル）の圧潰

●対象文献：

「融雪期の地すべりによる磐越西線松野隧道（トンネル）の圧潰」
・日本地すべり学会誌，Vol. 60, No. 4, pp. 154-160. (2023)

●著者名：松浦純生，大澤光，柴崎達也

●推薦理由：

鉄道網や道路網を構成する重要なインフラとして建設されてきた隧道（トンネル）については、地すべりにより被災する事例も多く発生しており重要な課題の一つとして位置づけられます。著者らは、1917年（大正6年）に発生した地すべりによる磐越西線松野隧道の圧潰について、当時の鉄道省の災害記録等を詳細に読み解くとともに、現地調査を実施して隧道と地すべりとの空間的な位置関係や、隧道の変状の進行および破壊の形態と地すべりの変動との関係を整理しました。これらの調査結果を基に、隧道が建設された斜面が古い地すべりの移動体の内部に位置しており、そのことが建設時における変形や崩壊の原因となっていたこと、隧道の上部斜面で新たに発生した地すべりそのものではなく、降雨と融雪により著しく流動化した土砂移動が隧道圧壊の原因であることを明らかにしました。さらに、気温の上昇や降雨による融雪に加え、高湿度下での強風による融雪がこの地すべり発生の引き金になった可能性が高いことを示すとともに、世界有数の多雪国である日本国は、温暖帯に位置するため温暖化の影響を受けやすく、温暖化の進行に伴う融雪や、雨と風が吹く荒天時にリスクが増大する指摘を行いました。本研究は、他にも数多く存在する過去の被災事例を精査して当時の現象を理解することの必要性・重要性を示すのみならず、今後のトンネル計画や維持管理、被災時の復旧対策などに関しても重要な知見を提供しています。

以上より松浦氏ほかの本学会での研究活動に対する貢献は、2024年度「技術報告賞」の受賞者として相応しいと判断し、ここに表彰委員会として推薦いたします。

● 略 歴 ●

1979年 名古屋大学農学部林学科卒業
1981年 筑波大学大学院環境科学研究科修了
1984年 筑波大学大学院農学研究科中途退学
1984年 農林水産省林業試験場防災部
1988年 農林水産省
森林総合研究所
森林環境部
2001年 独立行政法人森林総合研究所
水土保全研究領域
2010年 京都大学防災研究所地盤災害研究部門
2021年 京都大学名誉教授

